

村上市景況調査報告

平成25年10～12月期の実績と平成26年1～3月期の見通し

調査時期：2013年12月中旬～2014年1月上旬

調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 134社（回収率67.0%）

〔業種別内訳〕 卸売・小売業64社、建設業41社、製造業28社、飲食店・宿泊業20社、サービス業47社
〔地区別内訳〕 村上地区103社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区20社、山北地区23社

実施機関：村上市商工観光課

村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会

分析機関：村上商工会議所

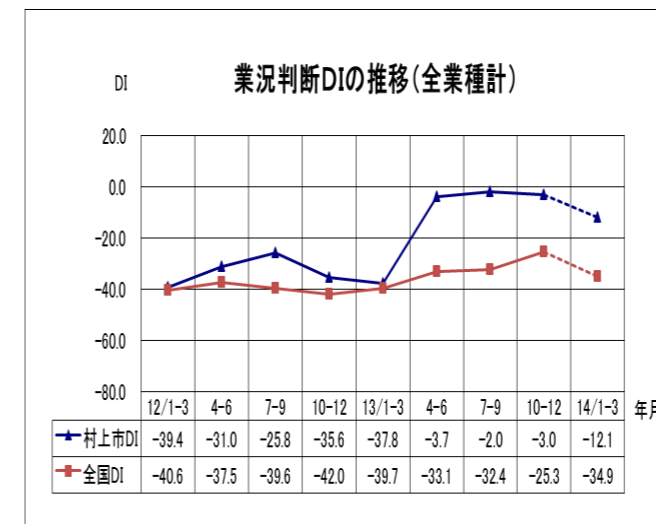
全国状況：全国中小企業動向調査結果【小企業編】（2013.10～12実績、2014.1～3見通し）

日本政策金融公庫 総合研究所

D I = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合（売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。）

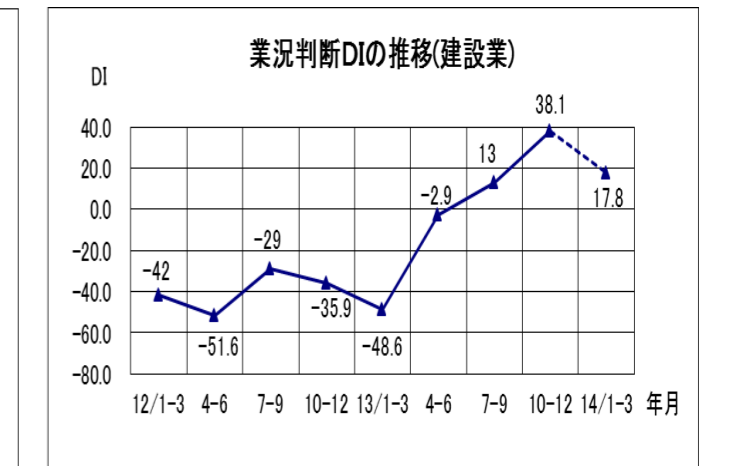
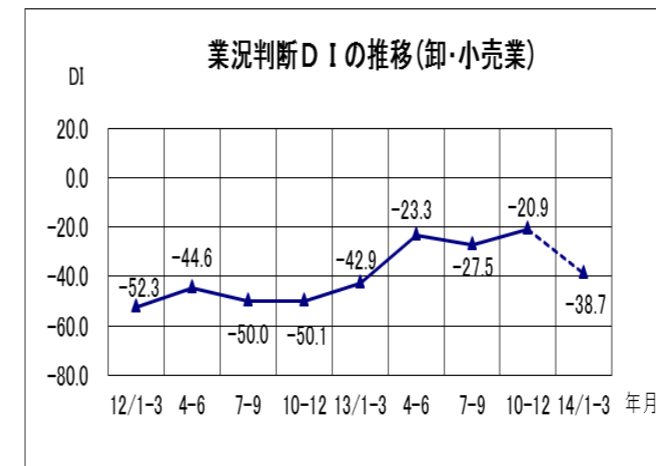
『市内中小企業の景況は、持ち直している』

■村上市の業況

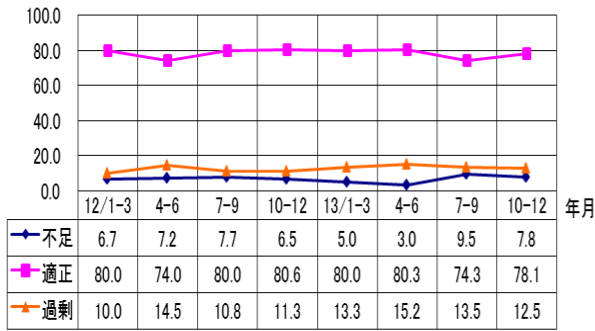


今期（13/10～12月期）の業況判断D I（全業種計）は、前期（13/7～9月期）に比べて1.0ポイント低下し、▲3.0となった。前年同期に比べ32.6ポイント、前期における今期予測より8.1ポイント、それぞれ上回った。D Iの水準は、調査開始（08/4～6月期）以来、前期に次ぐ高水準。D Iが低下した要因は、製造業、飲食・宿泊業、サービス業でD Iが低下したためであるが、建設業が25.1ポイントの高い伸びで、D I全体を下支えしている。

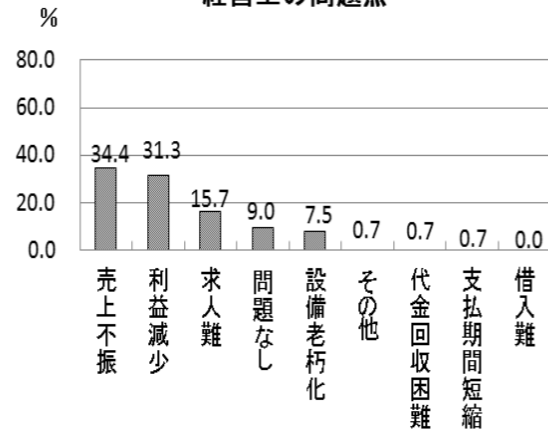
来期（14/1～3月期）については、D Iが9.1ポイント低下し、▲12.1となる見通しである。消費税増税前の駆け込み需要も一部で見込めるものの、競争激化や仕入原価の上昇、原材料・燃料等のコスト増などが影響し、サービス業を除く全業種で低下を予測している。



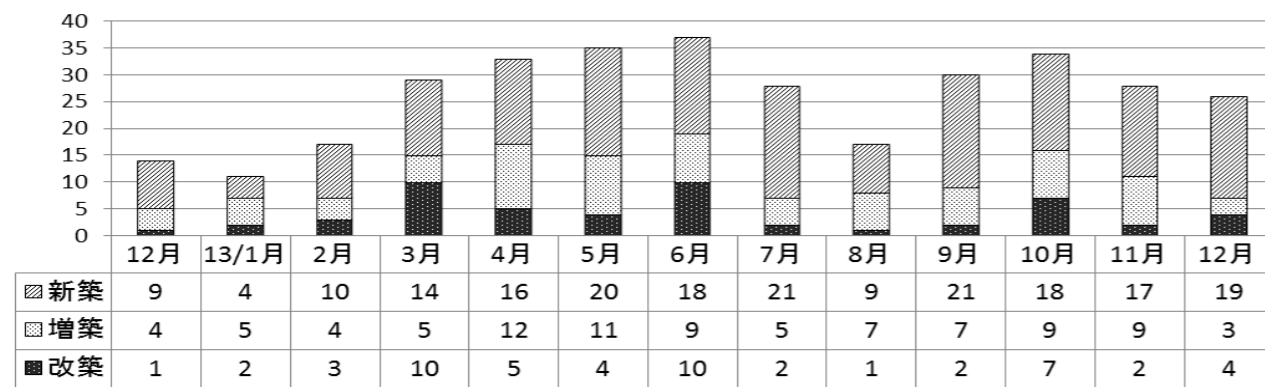
在庫状況の推移(製造業、卸・小売業)



経営上の問題点

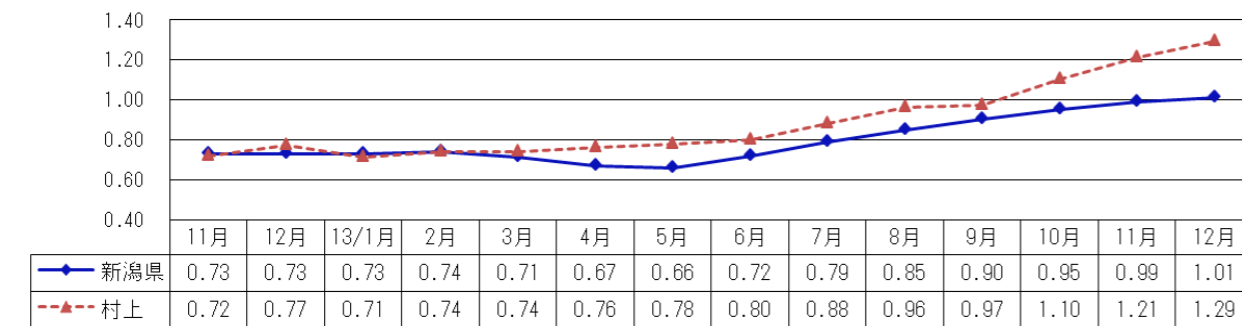


建築確認申請・工事届件数

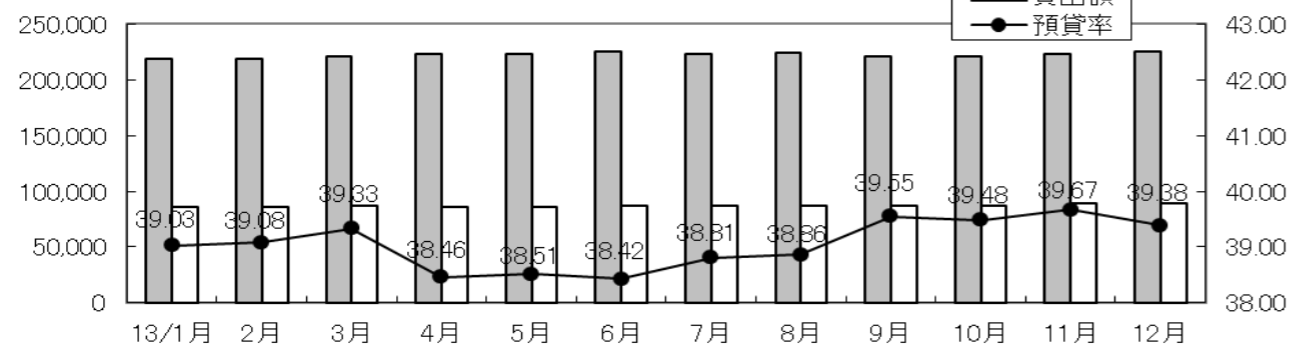


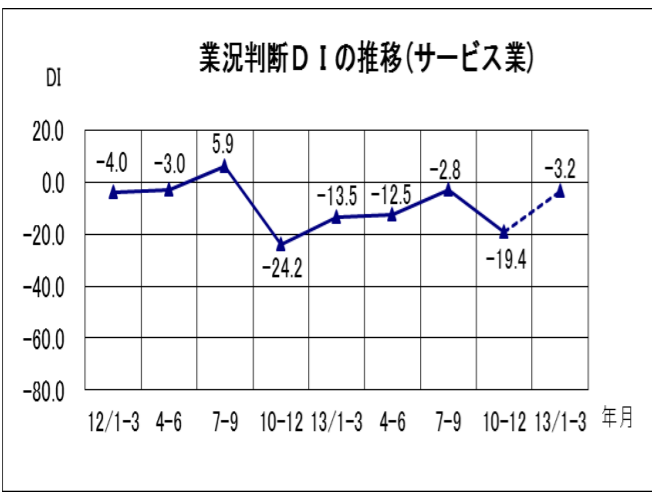
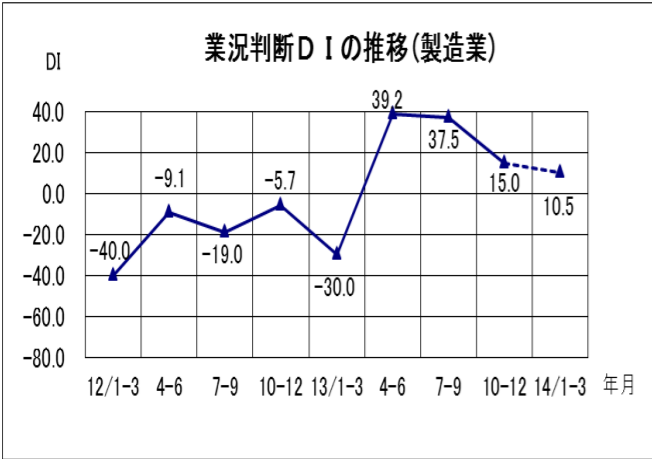
※前回より、民間受付の建築確認申請件数を算入いたしました。本データは、新築・増築・改築の申請があった建築確認申請と工事届の合算となります。

村上職安管内有効求人倍率(パート除く常用)



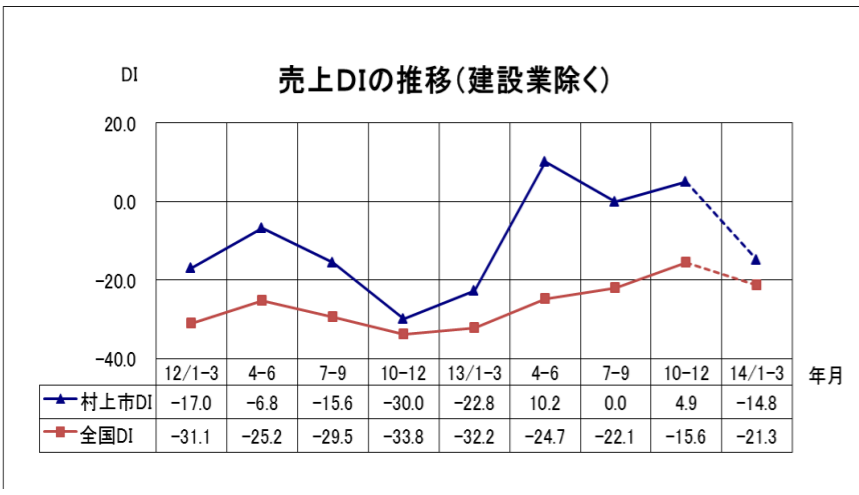
村上市・岩船郡内金融機関預貸状況





今期の業種別業況判断DIは前期比で、建設業が増税前の駆け込みによる設備工事の増加や公共工事の確保等で25.1ポイント、卸・小売業も駆け込み需要等で6.6ポイント、それぞれ上昇した。一方、飲食・宿泊業は、団体旅行の西高東低型(伊勢神宮と出雲大社の大遷宮で西向き)の動きなどが影響し25.8ポイント、製造業は受注・売上不振等で22.5ポイント、サービス業は仕入価格上昇や利益減少等で16.6ポイント、それぞれ低下した。

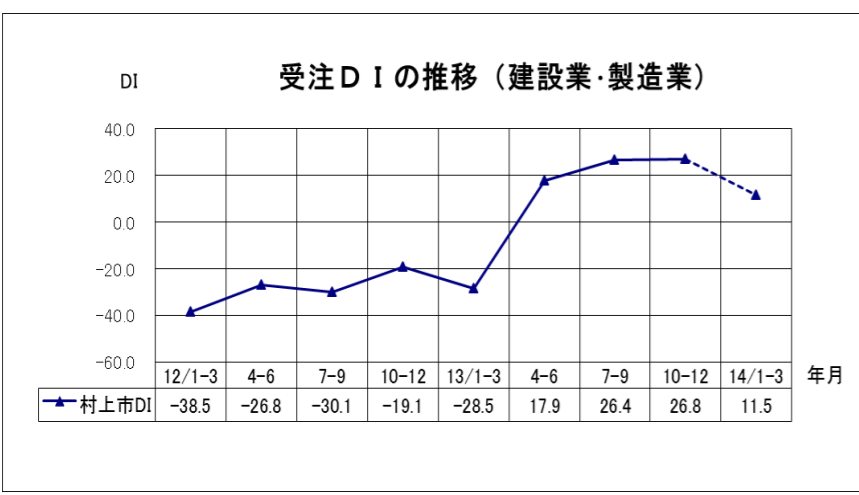
来期については、サービス業を除く全業種でDIが低下する見通し。コメントには、消費税増税前の駆け込み需要が見込める(卸・小売業)、競争激化、3月は雪でやや伸び悩み(建設業)、原材料が高騰(製造業)、先が読めない(飲食・宿泊業)、駆け込み受注有り(サービス業)などが寄せられた。



今期の売上DI(建設業除く)は、前期比4.9ポイント上昇し、4.9となり、前期における今期予測より11.9ポイント上回った。上昇は2期振りで、水準の高さは調査開始以来2番目。

全国DIも、前期比6.5ポイント上昇し▲15.6となり、4期連続の上昇。

来期については、19.7ポイント低下し、▲14.8となる見通し。全国DIも、5.7ポイント低下し、▲21.3となる見通し。

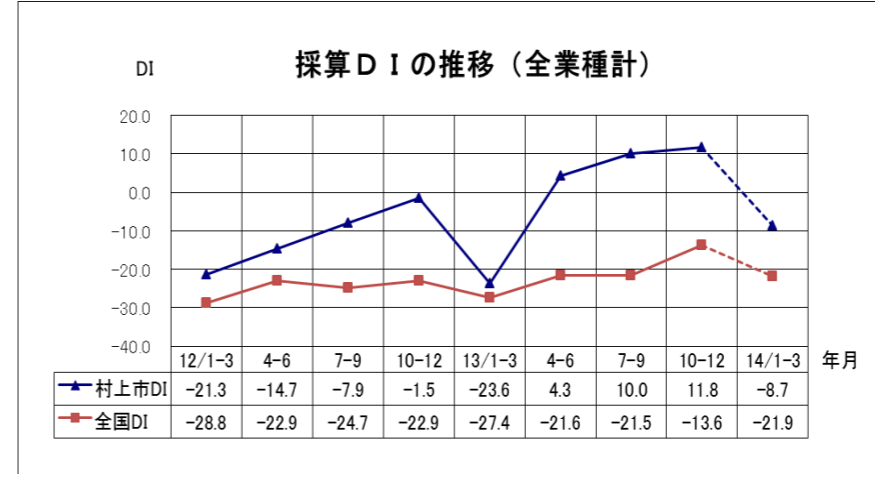


今期の受注DI(建設・製造業)は、前期比0.4ポイント上昇し、26.8となり、前期における今期予測より17.6ポイント上回った。水準は調査開始以来最高。

〈DI内訳〉 前期 今期
 建設業 13.0 → 16.7
 製造業 37.5 → 38.1

来期については、15.3ポイント低下し+11.5となる見通し。

〈DI内訳〉 今期 来期
 建設業 16.7 → 0
 製造業 38.1 → 23.8

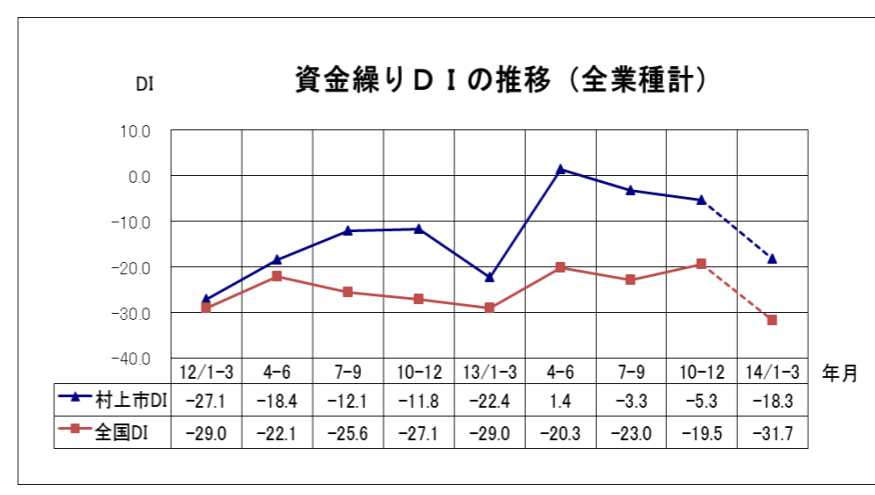


今期の採算DI(全業種計)は、前期比1.8ポイント上昇し、11.8となり、前期における今期予測より、6.5ポイント上回った。水準は調査開始以来最高。

全国DIは、前期比7.9ポイント上昇し、▲13.6となり、前年同期実績を10期連続で上回っている。

来期については、20.5ポイントの大幅低下で▲8.7となる見通し。

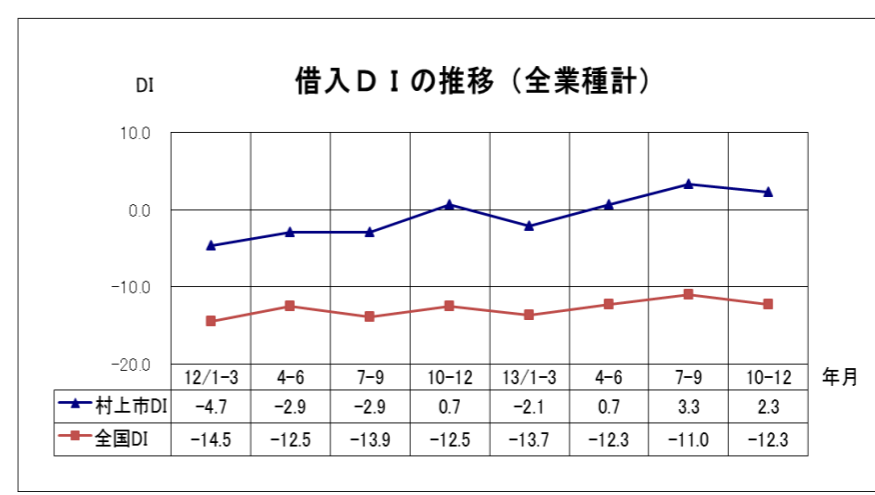
全国DIも8.3ポイント低下し、▲21.9となる見通しである。



今期の資金繰りDI(全業種計)は、前期に比べ2.0ポイント低下し▲5.3となったが、前期における今期予測より、9.5ポイント上回った。水準は調査開始以来、3番目に高い。

全国DIは前期比3.5ポイント上昇し、▲19.5となった。

来期については、13.0ポイント低下し、▲18.3となる見通し。全国DIも12.2ポイント上低下し、▲31.7となる見通しである。



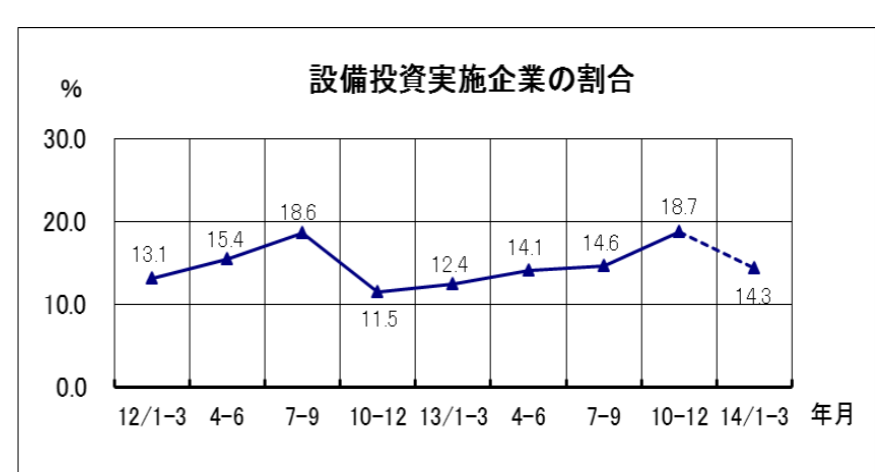
今期の借入DI(全業種計)は、前期に比べ1.0ポイント低下し、2.3となった。水準は調査開始以来、前期に次ぐ高水準。

〈内訳は以下の通り〉

「容易になった」
 前期 6.0% → 今期 3.8%

「変わらない」
 前期 43.6% → 今期 43.9%

「難しくなった」
 前期 2.7% → 今期 1.5%



全業種における今期に設備投資した企業の割合は、前期比4.1ポイント上昇し、18.7%となった。上昇は4期連続で、水準は調査開始以来、09/7~9月(19.4%)に次ぐ高さ。

来期に設備投資を予定している企業の割合は、4.4ポイント低下し14.3%となる見通しである。

